

田畑政治も愛した まるたやの チーズケーキ

三層の組み合わせが生む、濃厚かつさわやかなおいしさが定評、まるたや「チーズボックス」。誕生の裏側にある知られざる事実。その誕生秘話とは…。



濃厚なクリームチーズの層と、爽やかな酸味のサワークリームの層が、「あげ潮」をアレンジして作ったクッキー生地とよく合います！
チーズボックス 2,970円
(縦約23cm×横約8cm×高さ約3cm)



あげ潮 675円(180g)
チーズボックスと並ぶ、まるたやの代表的なお菓子。

※チーズボックスとあげ潮のセットはふるさと納税返礼品にもなっています。

CHECK

株式会社まるたや洋菓子店
会長 望月まさ子さんにお聞きしました！
(創業者・秋田一雄さんの娘)

田畑家は東京に住んでいた頃も、浜松に頻りに訪れ、秋田家と盛んに交流していました。まるたやの工房へも、田畑あつ子さんはよく遊びに来ていました。ご家族の話によると、政治さんも、まるたやのチーズケーキをおいしいと食べていらつやつたそうです。まるたやのチーズケーキは、現在もほぼ当時の製法で作られています。1964年日本が湧いたオリンピックの時代に思いを馳せながら、ぜひ味わってみてください。



DATA
まるたや洋菓子店 神田本店
☎053-441-9456
浜松市中央区神田町367
10:00～18:00
※佐鳴台店、メイワンエキマチ店、遠鉄百貨店、初生店(FC)もあります。
※価格はすべて税込表記です

全国的に高い人気を博す、まるたやの「チーズボックス」。1964年(昭和39年)、東京オリンピックが開催された同じ年に、最初は丸い形をしたチーズケーキとして誕生した。まるたや洋菓子店の創業者・秋田一雄は、アメリカに留学していた親戚から、ホームステイ先で食べたチーズケーキが大変おいしく、レシピを教わったと聞く。その親戚というのが、東京オリンピックを招致した田畑政治の娘・あつ子(一雄の妻のいとこ)である。東京オリンピックでコンバニオンを務めるために、語学力などを身につけたいと留学していたのだ。ホームステイ先は、田畑とともに招致活動に尽力した、アメリカの実業家、日系人のフレッド・イサム・ワダの自

宅であった。生粋の新しいもの好きだった一雄は、あつ子から聞いたレシピをもとに、すぐさま商品化を始めた。1964年の東京オリンピックこそが、まるたやのチーズケーキの原点なのである。秋田は材料にこだわり、デンマーク産の濃厚なチーズとさわやかなサワークリームを厳選。クッキー生地には、コーンフレークを使用した自社のオリジナルクッキー「あげ潮」を活用した。繊細なチーズを、職人ならではの手作業で扱い、ついに未知の洋菓子「チーズケーキ」を作り上げた。しかし、当時の日本はチーズ自体が珍しい時代。馴染みがないせいか売れ行きが良くなかったため、店頭から姿を消す。ある日、「あのチーズ

ケーキはもうないのですか？」と一人の客から尋ねられたことから、販売を再開。その後、秋田が東京の知人に会いに行く際の土産に、チーズケーキを持ち運びやすくするため、ボックス型にするようシェフに命じた。こうして、味はそのままだに形のみを変えて「チーズボックス」が誕生したのだ。長い歳月が経ち、ようやく口コミで浸透してきたころ、独自の冷凍技術を生み出し、冷凍チーズボックスの通信販売を開始。全国紙に取り上げられ、人気は爆発的に拡大した。遅咲きながら、今や看板商品として根強い人気を誇る浜松銘菓となったのである。

OLYMPIAN INTERVIEW

1952年 ヘルシンキオリンピック 倉橋範彦さん



ヘルシンキオリンピックの水泳日本代表チーム(前から2列目の左から3人目が田畑さん、最後列の左から5人目が古橋さん、最後列の右端が倉橋さん)

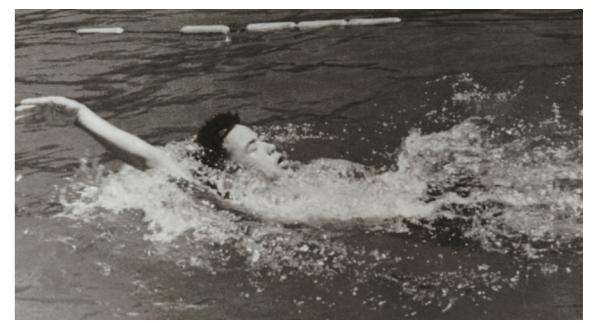
田畑政治が日本代表選手団団長、古橋廣之進が主将を務めるヘルシンキオリンピックに出場した、倉橋範彦さん(86歳)。同じ浜名湖で水泳に惚れ込み、偉大な先輩たちとともに世界の舞台に立った競泳選手である。当時の様子を伺いながら、未来のオリンピックへエールをいただいた。

田畑政治と古橋廣之進への想いを糧に オリンピック出場を果たした浜松出身スイマー

倉橋さんは、いつから水泳を始めたのですか？経歴を教えてください。私は浜名湖のほとりで生まれ育ち、小学校に上がる前から、浜名湖で泳いでいました。通っていた雄踏小学校の水泳部では、浜名湖での遠泳が伝統的に行われていて、そこで地力がついたのだと思います。中学3年生の時、全国ランキングの背泳ぎで1位になりました。インターハイでも2種目を連覇し、高校3年生の時にオリンピック代表候補に選ばれました。

ヘルシンキ大会で団長を務めた田畑政治さんはどんな方でしたか？私がヘルシンキに出場したのは10代最後の頃で、田畑さんは自分の親くらいの年齢でした。同郷でしたが、威厳があり、私にとって雲の上の存在でした。しかし、私の顔も名前もすぐに覚えていただき、オリンピック代表候補合宿や試合などで会えば、「倉橋頑張れ」「しっかりやっているか」など、必ず声をかけてくださり、尊敬と親しみの念を持っていました。この頃の田畑さんは、水泳の指導者というより、水泳界や日本選手団を治める人で、大所高所から胸に響く激励で、気持ちを鼓舞していただき、私にとって精神的支柱でした。

古橋廣之進さんとも、ヘルシンキ大会に一緒に出場されたのですよね。古橋さんは同じ雄踏町出身で、家族ぐるみで付き合い合っていて、兄貴のように慕っていました。私の4年先輩ですが、古橋さんの背中を追って小・中・高(浜松二中)・大学(日本大学)・勤務先(日本水泳連盟)と同じ進路を歩きました。私は何とか一緒にオリンピックに出たいと努力を重ね、田畑さんの激励もあり、ヘルシンキ大会に背泳ぎで出場することができました。結果は、ターンを失敗して不本意な成績ではありましたが、お二人と一緒でできたオリンピックはかけがえない思い出です。



倉橋範彦さん

フジヤマのトビウオと称賛された古橋さんはどんな方でしたか？とにかく努力家でした。私たちの大学には全国から強い選手が集まっていますが、みんなが寝静まってから、夜中の真つ暗なプールで一人、秘密練習をされていました。「魚になるまで泳ぐ」という古橋さんの名言があります。まさに「泳心一路」という言葉に凝縮されています。

※P15に説明あり

今の若いアスリートたちへ一言
2020年、二度目の東京オリンピックでは、どんなドラマが生まれるのでしょうか。水泳ニッポンの原点である浜松で功績を残してきた先輩オリンピックアスリートには、ぜひ頑張ってください。